

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090100700		
法人名	社会福祉法人 博悠会		
事業所名	グループホームフランセーズ悠よしだ		
所在地	長野県長野市吉田4-19-4		
自己評価作成日	平成21年9月7日	評価結果市町村受理日	平成22年1月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090100070&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成21年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりが「どの様に過ごしたいか」の思いを汲み取り、したい事がしたい時に自由出来る生活の支援を目指しています。その為にできることを大切に、できないところをさりげなく支援するケアに努めています。また地域行事活動や人々と積極的に関わり、地域と繋がりがながら暮らしに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長野市の運動公園近くにあるホームで、敷地内には法人内の短期入所・通所介護・居宅介護支援事業所・障害児通所などが隣接している複合施設の一部にあり、皆さんでお世話をする山羊が飼育されているなど、和やかな雰囲気のあるホームである。ホームのテラスは別荘風のウッドデッキにベンチとパラソルが用意され、階段を下りると皆さんで野菜作りをされていた畑があり、とても落ち着いて過ごせる工夫が感じられた。開設して2年少々であるが、職員の支援により看取りも経験されたことは、利用者・ご家族にとっても心強いと言える。また、職員全員が日々、高齢である利用者の身になって「明日」とか「来年」ではなく、「今日」を大切に希望に応じられるよう体制作りがされている事がうかがえた。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
ユニット名(たんぼぼ)				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(福寿草)			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「地域と繋がりながらの暮らしの支援」を理念に掲げており、職員会議で話し合い意識付けしている。その理念の下、地区行事に参加したり、行事に招待して地域住民の方と触れ合って実践している。</p>	<p>前回の調査後に理念の見直しを行い、「住み慣れた地域で暮らし続ける事」への支援を月1回のミーティング時に確認し、理念の共有をし日々のケアに活かしている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>季節ごとの地区行事に参加したり、ホームでの行事にお招きして交流している。お誘い頂く回数や顔なじみも増え、ご近所からも気軽に声をかけて頂けるようになった。</p>	<p>近くの保育園の七夕・地区のピヤガーデンやお祭りに参加したり、ホームのボランティアによるハーモニカ演奏・利用者の親族とお仲間による相撲甚句やお茶会・毎年隣接の複合施設で開かれているサマーフェスティバルには、大勢の地域の方が来訪するなど、地域との交流は盛んに行われている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地区行事に積極的に参加し、実際に交流することで認知症の方は特別でないことを伝えていく一環としている。</p>	/	
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議の際は、ほぼ毎回活動報告などを行っている。又、実際の行事に招待して体感して頂く事もある。会議で頂いた意見は毎月の職員会議で全員に伝え、サービス向上に向け活用している。</p>	<p>初めの頃は、利用者のご家族代表と職員での会議であったが、今では包括支援センターの職員も加わり、2ヶ月に1回定期的に関われ、ホームの様子の報告について助言を頂いたりしている。</p>	<p>家族代表の方が避難訓練にも参加し協力は得られたが、ホームでの様子をお便り以外に知って頂く為にも、より多くの家族への参加を呼び掛けたり、災害時に備え地区の協力が得られるよう運営推進会議での働きかけが望ましい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>認定更新の際など、ご利用者の状態やケアの取り組みについて話をしている。サービスについて不明な点があれば、随時相談している。</p>	<p>運営推進会議には、市の地域包括支援センターの参加もあり、助言をいただいている。また、市のあんしん相談員の方も定期的に訪問し、利用者の相談にのって頂くなど、市と連携を図りケアの向上に活かしている。</p>	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為や玄関の施錠による弊害について理解しており、施錠しない自由な暮らしを支援している。身体拘束に至らないよう、ケアの方法は適宜職員間で話し合いをしている。	玄関は、夜間のみ施錠している。徘徊・帰宅願望の方も居るが、家族と相談し職員が後から見守りながら、近くにある本人の家に行き、気が済むよう配慮するなど、事業所全体で身体拘束を行わない取り組みを行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に出席したりして学んでいる。虐待に繋がらないよう職員の心身の負担についても毎月面会を行い話を聞く様努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本や研修などで学んでいるが、職員全員が把握しているには至らず。狭義のケア範囲での権利擁護は活用しているが、制度の活用は出来ていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	費用、ケア、リスク、退去時等について区切って説明し、項目ごと不明な点や心配な事はないか尋ね、説明し、了承頂いてから次の項目の説明をして契約に関する理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月安心相談員に訪問して頂き、話を聞いて頂いたり、モニタリング時職員が意見、要望を聞いて反映させている。ご家族にも面会の都度状況について話をするよう努め、サービスについて意見を頂いている。直接言いにくい場合は、意見箱を設置しているが活用はされていない。	市からの派遣で毎月あんしん相談員が訪問し、利用者から意見を聞いて頂いたりもするが、職員は日頃から意見を言いやすい雰囲気づくりに心掛けており、ご家族の面会時には色々な意見を聞く事が出来、意見・要望等については、毎月のミーティングで話し合いケアに活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りの都度、毎月の面接時、毎月の定例会議でも議題を募って議題にしている。日頃から意見や業務、サービス上の提案についても適宜意見を聞き、実際に実行し反映している。	定期的な自己評価及び管理者と毎月面接という意見交換の場が設けられ、意見を反映している。	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よした)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者が毎月の面接時、個人の職能評価を行い、職員がやりがいや向上心をもって働ける様働きかけてる。休憩場所を確保したり、各々意見を聞き、支障がない範囲で要望を聞き、労働環境整備に努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各々のケア実践力などに応じて、必要と思われる法人内外の研修に参加するよう設定している。施設内の勉強会についても個々に応じて設定し、トレーニングの機会を設けている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者と電話で相談したり訪問させて頂き、交流している。又、他施設の勉強会に参加したり、職員が見学に行ける様見学依頼したりして、交流の機会を設けている。研修会、勉強会には可能な限り参加し、サービスの質向上を目指している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス導入前よりご家族から本人が不安になりそうな状況等の情報収集し、導入時には全職員が本人の話を聞いたり、じっくり関わる時間を持つよう意識している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>これまでの経過等について聞き取る時、介護についての苦労や迷い、悩み等時間を制限せず十分に話を聞くよう努めており、労いの言葉をかけている。質問や不安に対しては、今後の方向性等安心が出来る様具体的に答える様にしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人やご家族の状況、緊急性や症状等を含め考慮し、必要に応じて他サービスの情報提供や調整を行っている。</p>		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な作業や活動をご利用者と共に行うことを基本としている。職員が教わることも多く、ご本人中心に行っていけるようさりげなく支援する関係づくりに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れご家族もご本人を支える重要な資源であると伝えている。毎月写真付きお手紙で様子を報告したり、受診面会時外出などを提案したり、外泊の相談がある際は積極的に応援する等本人と家族の繋がりを大切にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時、以前住んでいた家に行き近所の人と再会する機会をもったり、近隣になじみの店がある方がおり、時折お茶を飲みにいったりして繋がりを保てるよう支援している。	懐かしい場所にドライブに出かけ、知人とお茶を飲んだり、誕生日には希望を聞きドライブや外食にお連れし、記念の1日が過ごせるよう心掛けている。調査訪問時には、最高齢で99歳を今年迎える方が居るなど、職員は高齢である利用者に満足していただけよう努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間でご利用者同士の人間関係について共有し、波長が合い穏やかに過ごせる方と一緒に過ごせる場所を設定している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方にも行事に招待し、送迎して参加して頂いたり、ご利用者と共にお見舞いに行ったりしている。ご家族にも今後の方向性について相談に乗ったり情報提供したりできる限りの支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にケアプラン作成時及びアセスメント時、モニタリング時に本人に暮らし方等について意見を聞いている。意思表示が困難な方にも普段の言動や記録から思いを汲み取れるよう努め、ちょっとした言葉でも、本人の要望として尊重している。	毎月のモニタリングにより希望等の確認、或いは毎月訪問するあんしん相談員を通して、意見を聞いたりしている。また、担当職員の意見により随時の見直しも行われており、一人ひとりの意向を反映している。	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から入居前の生活や馴染みの暮らし方、習慣などの情報を頂き、アセスメント時に確認している。又入居後も折に触れご家族からご本人の趣向などについて話を聞き情報収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床、入眠時間等も職員間で申し送り把握して本人のペースにあわせている。通常的心身状態、それと照らし合わせた変化に留意して。出来ること、出来ない事も定期的に評価し、できる事と支援が必要な部分を職員間で把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は本人、家族の意見や要望を必ず聞いている。その上で職員間で課題やケアのあり方について意見を出し合い、それらを踏まえたケアプラン作成に努めている。	介護計画は、本人・ご家族から意向・要望などを聞き、6ヶ月ごとに見直しを行っている。また、毎月のミーティングで確認も行い、担当職員の意見により、状態変化が生じた時には随時の見直しもやっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプラン実践について記録の書き方の指導を適宜しており、得られた情報からケア方法について見直しや検討をしている。確定したケア方法については改めてケアプランを作成し徹底に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的なニーズにも適宜対応出来る様に柔軟な発想を持ちケアを提供できるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望に応じて訪問理髪サービスを利用したり、安心相談員と情報交換している。民生委員を通じて地域活動に互いに参加しあったり協働している。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は本人や家族に選定してもらっている。施設協力医と外部病院に分かれているが、協力医には変化があれば逐一相談し、必要に応じ往診して頂き家族に報告してる。外部でも異常や相談がある際は、管理者が家族に同行して主治医と話をしてる。	入居時に、主治医をホームの協力医か今までのかかりつけ医かの希望を聞いている。協力医による往診は月2回行われ、ご家族が月に2回診察に連れて行く人もいる。状態によっては管理者が診察に同席し状態の把握に努めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問時に合せ前もって相談事や気づきをまとめておき、訪問時指示を仰いでいる。又普段から些細なことでも気になることがある際は電話で相談しており、必要に応じて訪問して頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はこまめに医療機関に連絡し状態や今後の見通しについて情報収集している。又見舞いに行ったり家族と連絡を取り合い早期退院支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族に説明している。実際にターミナルに移行しそうな状態の際は早い段階で主治医や家族、必要に応じて親族にも呼びかけ話し合いの場を設定している。指針を定めており、今後について要望や意向を聞いたり事業所の説明をし、方向性を確認している。	前回の外部調査後に独自の『看取り介護指針』を作成し、重度化した場合にはその都度ご家族に対して指針による説明を行い、同意を得ている。独自の指針を作成する前に主治医・ご家族と相談しながら看取りも行われた。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急対応や応急手当などの勉強会を行い全職員が対応できるよう努めている。毎月の定例会議でも起こりうるリスクやその対応について説明をし、職員間で共有している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については昼夜の避難訓練を行い、全員が参加できるよう設定している。参加できなかった職員にも詳細に説明し、避難方法について把握を促している。地震、水害避難方法は今後検討予定。地域住民の協力体制の了承は頂いているが、訓練への参加実績はない。	夜間の避難訓練が行われた。計画を立て役割分担等も決め行ったが、ホーム独自では2ユニットに一人の夜勤では、避難・連絡体制的には大変な事など、反省会では色々な問題点が確認出来た。	ホーム独自で夜間の避難訓練も行われたが、法人内の隣接施設との協力体制、または開設時に地区自主防災会と『災害時における協力応援体制に関する協定書』で防災協力を締結し、応援を約束していることから、避難訓練等にも地区の参加を呼び掛け、災害時には協力が得られるよう働きかける事が望ましい。

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格に応じて声がけの仕方を工夫している。訪室時のノックや排泄についての声がけ、あからさまな介護はしない等プライバシーを損ねないよう職員間で配慮してる。	契約時に本人・ご家族から年齢毎に生活歴の情報を得、特徴などを踏まえ一人ひとりのプライバシーに配慮しながらケアに活かしている。トイレ介助や入浴介助などは特に職員間でも配慮を確認し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に「何をしたいか」ご本人の希望を聞き、それを優先した活動を重ねる事で自己決定出来る場面が増える様努めてる。何かしようとしている際はそっと見守り、主体的な行動を大切にし、したいことが自由に出来る環境であるよう努めてる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入眠時間、食事の時間は本人のペースに合せている。一日の流れもルール化せず、どのように過ごしたいか常に希望を聞いている。急な外出などの希望があるときも職員の都合で制止せず、したい時にしたい事が出来るよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は本人に服を選んで頂いてる。意思表示が困難な際は職員がご家族の要望等を汲みコーディネートしている。時折理髪ボランティア来所して頂き、マニキュアなどのおしゃれを楽しむこともある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食べ物を把握しており代替品を個別に提供したり、個々に合わせ食事形態も工夫して楽しく楽に食事できるよう配慮してる。職員とご利用者が協力し合って食材カットや炒め物、味付け、盛り付けを行ってる。苦手な方には配膳や台拭き等の作業して頂いてる。	食事摂取記録ノートを作成し、一人ひとりの調理形態・摂取量・好みなど記録し、食事の摂りづらい方など職員間で情報を共有し工夫している。食事には、利用者と共に庭で収穫した野菜を使い、調理・盛りつけ・片付けなど行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取が不十分な際は摂取しない原因を検討し、食器を変えたりして適切な摂取量が確保出来る様工夫している。摂取量が気になる際は個別にチェック表を用いて摂取量を把握すると共に、必要な量を摂取出来る様昼夜共に職員間で工夫して提供している。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを全職員が提供できるようケア方法を共有し徹底を図っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「後始末ケア」ではなく「先回りケア」で失禁を防ぐ様努めている。失禁やオムツ使用の増大が気になる方は個別の排泄記録を用いてパターンの把握、個別誘導時間等を検討し、トイレでの排泄、オムツ使用の軽減を目標にしている。	排泄記録により個々の排泄パターンを把握しており、時間を見計らって声掛け誘導など行い出来るだけトイレでの排泄に支援している。オムツの使用量も減ってきている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘もBPSDを出現させる大きな要因である事を理解しており、出来る限り普通便排泄が促せる様個人に応じ習慣となる飲食物を取り入れたり運動したりしている。身体状況から下剤を服用している方も人間的な排泄(下剤の都度下痢ではなく普通便になる様)が出来る様検討中。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があればそのタイミングで入浴して頂き、個々の希望の時間に合わせてお誘いしている。入浴拒否が続いている方には手紙を渡したり声かけを工夫したり希望する職員が対応したりしている。バラ風呂等楽しめる工夫をしている。	浴槽は一般家庭用の浴槽と、腰掛けて入る事が出来る機械浴槽があり、身体的に重度化しても入浴出来るよう工夫がされており、一人ひとりの状態や希望により、どちらの浴槽で週に何回入浴するのか一覧表が作成されている。また、例年であれば年に2回ほど温泉にもドライブを兼ね出かけるが、今年は新型インフルエンザの影響により外出は見合わせている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて就寝、午睡して頂いてる。夜間不眠がみられる際は午睡を促したり、日中の活動量を増やし自然に眠くなる様促している。又職員が添い寝する等安心して眠りにつけるよう工夫している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について勉強会をしたり処方箋をケース毎に整理している。服薬時本人と一緒に確認し見守ってる。服薬の変更があった際は記録し、全職員が把握する様にしている。様子観察を申し送り、症状に変化等があればすぐに管理者に報告し、主治医に指示を仰ぐよう徹底している。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	心身状況に合わせて食事や掃除、洗濯物たみ等、出来る範囲のことを役割としてケアプランに組み入れ行って頂いている。希望がある際は飲酒もして頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日希望を聞いて戸外に出ている。本人希望時は制止せず自宅に同行する等行きたい所に行ける様支援している。集団での遠出外出(温泉等)とは別に、普段の会話から行きたい所を把握し、職員とマンツーマンで遠出したりして。	出来るだけホーム内に留まらず、食材の買い出し・散歩・ドライブなど日頃から外出の機会を多く設けている。希望により懐かしい場所にお連れしたり、誕生日には『来年』ではなく『今』を大切に、外食など希望の1日になるよう支援している。今年は、7年に1回の善光寺の御開帳の年でもあり、皆さんで行って来た。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は本人管理して頂いている。紛失し物盗られ妄想があっても、本人がしまいやすい所を把握し発見する等本人所持が継続出来る様支援している。買物時にレジや銀行で支払い等はして頂いているが、本人の所持金で買物することは行っていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけ話して頂いている。年始にはご家族宛に年賀状作成を支援している。友人から文通の申し出があり、職員が支援しながら不定期に文通されている方もいる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、トイレ等は不安感を抱かぬ様暗くならすぐ電気をつける、扉開閉や調理の際大きな音を立てない、空調管理等不快な刺激を避ける様、環境に配慮している。居間にはご利用者が活けた花や行事の写真、季節を採り入れた飾りを適宜入れ替えている。	玄関からリビングに入ると広い空間で、家族から毎月お花が届けられ、利用者によるお花が生けられていたり、皆さんで外出した記念写真も沢山飾られていた。2ユニットは事務所を挟んで分かれているが、訪問調査時にもそれぞれのユニットに行ったり来たりで、人数把握が出来ないくらい自由に居心地の良さが感じられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブルも2つに区切ったり、ソファや座イスなどの居場所を設定してる(和空間の設置も検討中)。フロアを自由に行き来して頂き、気の合う方同士が穏やかに過ごしたり、足を伸ばせる空間をつくり、リラックス出来るよう配慮してる。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族になるべくなじみの物や好みの物を持ち込んで頂くようお願いしてる。外出時や家族、友人と一緒に写真を飾ったりしてる。	特に制限もなく、使い慣れた筆筒や仏壇・テレビ・家族の写真など持ち込まれ、個々に過ごしやすいよう居室作りがされていた。各居室には洗面台が備えて付けられており、食事の後は職員の声掛けにより口腔ケアが行われていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに大きく「便所」と表示したり、居室を迷ってしまう方の部屋には好きな花を目印につけたり、トイレの手すりに赤色のテープをつけたりして職員が手や口を出しすぎず、ご本人が自分で行為を行えるよう環境の工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「地域と繋がりながらの暮らしの支援」を理念に掲げており、職員会議で話し合い意識付けしている。その理念の下、地区行事に参加したり、行事に招待して地域住民の方と触れ合って実践している。</p>	<p>前回の調査後に理念の見直しを行い、「住み慣れた地域で暮らし続ける事」への支援を月1回のミーティング時に確認し、理念の共有をし日々のケアに活かしている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>季節ごとの地区行事に参加したり、ホームでの行事にお招きして交流している。お誘い頂く回数や顔なじみも増え、ご近所からも気軽に声をかけて頂けるようになった。</p>	<p>近くの保育園の七夕・地区のピヤガーデンやお祭りに参加したり、ホームのボランティアによるハーモニカ演奏・利用者の親族とお仲間による相撲甚句やお茶会・毎年隣接の複合施設で開かれているサマーフェスティバルには、大勢の地域の方が来訪するなど、地域との交流は盛んに行われている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地区行事に積極的に参加し、実際に交流することで認知症の方は特別でないことを伝えていく一環としている。</p>	/	
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議の際は、ほぼ毎回活動報告などを行っている。又、実際の行事に招待して体感して頂く事もある。会議で頂いた意見は毎月の職員会議で全員に伝え、サービス向上に向け活用している。</p>	<p>初めの頃は、利用者のご家族代表と職員での会議であったが、今では包括支援センターの職員も加わり、2ヶ月に1回定期的に関われ、ホームの様子の報告について助言を頂いたりしている。</p>	<p>家族代表の方が避難訓練にも参加し協力は得られたが、ホームでの様子をお便り以外に知って頂く為にも、より多くの家族への参加を呼び掛けたり、災害時に備え地区の協力が得られるよう運営推進会議での働きかけが望ましい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>認定更新の際など、ご利用者の状態やケアの取り組みについて話をしている。サービスについて不明な点があれば、随時相談している。</p>	<p>運営推進会議には、市の地域包括支援センターの参加もあり、助言をいただいている。また、市のあんしん相談員の方も定期的に訪問し、利用者の相談にのって頂くなど、市と連携を図りケアの向上に活かしている。</p>	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為や玄関の施錠による弊害について理解しており、施錠しない自由な暮らしを支援している。身体拘束に至らないよう、ケアの方法は適宜職員間で話し合いをしている。	玄関は、夜間のみ施錠している。徘徊・帰宅願望の方も居るが、家族と相談し職員が後から見守りながら、近くにある本人の家に行き、気が済むよう配慮するなど、事業所全体で身体拘束を行わない取り組みを行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に出席したりして学んでいる。虐待に繋がらないよう職員の心身の負担についても毎月面会を行い話を聞く様努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本や研修などで学んでいるが、職員全員が把握しているには至らず。狭義のケア範囲での権利擁護は活用しているが、制度の活用は出来ていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	費用、ケア、リスク、退去時等について区切って説明し、項目ごと不明な点や心配な事はないか尋ね、説明し、了承頂いてから次の項目の説明をして契約に関する理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月安心相談員に訪問して頂き、話を聞いて頂いたり、モニタリング時職員が意見、要望を聞いて反映させている。ご家族にも面会の都度状況について話をするよう努め、サービスについて意見を頂いている。直接言いにくい場合は、意見箱を設置しているが活用はされていない。	市からの派遣で毎月あんしん相談員が訪問し、利用者から意見を聞いて頂いたりもするが、職員は日頃から意見を言いやすい雰囲気づくりに心掛けており、ご家族の面会時には色々な意見を聞く事が出来、意見・要望等については、毎月のミーティングで話し合いケアに活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りの都度、毎月の面接時、毎月の定例会議でも議題を募って議題にしている。日頃から意見や業務、サービス上の提案についても適宜意見を聞き、実際に実行し反映している。	定期的な自己評価及び管理者と毎月面接という意見交換の場が設けられ、意見を反映している。	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者が毎月の面接時、個人の職能評価を行い、職員がやりがいや向上心をもって働ける様働きかけてる。休憩場所を確保したり、各々意見を聞き、支障がない範囲で要望を聞き、労働環境整備に努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各々のケア実践力などに応じて、必要と思われる法人内外の研修に参加するよう設定している。施設内の勉強会についても個々に応じて設定し、トレーニングの機会を設けている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者と電話で相談したり訪問させて頂き、交流している。又、他施設の勉強会に参加したり、職員が見学に行ける様見学依頼したりして、交流の機会を設けている。研修会、勉強会には可能な限り参加し、サービスの質向上を目指している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス導入前よりご家族から本人が不安になりそうな状況等の情報収集し、導入時には全職員が本人の話を聞いたり、じっくり関わる時間を持つよう意識している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>これまでの経過等について聞き取る時、介護についての苦労や迷い、悩み等時間を制限せず十分に話を聞くよう努めており、労いの言葉をかけている。質問や不安に対しては、今後の方向性等安心が出来る様具体的に答える様にしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人やご家族の状況、緊急性や症状等を含め考慮し、必要に応じて他サービスの情報提供や調整を行っている。</p>		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な作業や活動をご利用者と共に行うことを基本としている。職員が教わることも多く、ご本人中心に行っていけるようさりげなく支援する関係づくりに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れご家族もご本人を支える重要な資源であると伝えている。毎月写真付きお手紙で様子を報告したり、受診面会時外出などを提案したり、外泊の相談がある際は積極的に応援する等本人と家族の繋がりを大切にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時、以前住んでいた家に行き近所の人と再会する機会をもったり、近隣になじみの店がある方がおり、時折お茶を飲みにいったりして繋がりを保てるよう支援している。	懐かしい場所にドライブに出かけ、知人とお茶を飲んだり、誕生日には希望を聞きドライブや外食にお連れし、記念の1日が過ごせるよう心掛けている。調査訪問時には、最高齢で99歳を今年迎える方が居るなど、職員は高齢である利用者に満足していただけよう努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間でご利用者同士の人間関係について共有し、波長が合い穏やかに過ごせる方と一緒に過ごせる場所を設定している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方にも行事に招待し、送迎して参加して頂いたり、ご利用者と共にお見舞いに行ったりしている。ご家族にも今後の方向性について相談に乗ったり情報提供したりできる限りの支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にケアプラン作成時及びアセスメント時、モニタリング時に本人に暮らし方等について意見を聞いている。意思表示が困難な方にも普段の言動や記録から思いを汲み取れるよう努め、ちょっとした言葉でも、本人の要望として尊重している。	毎月のモニタリングにより希望等の確認、或いは毎月訪問するあんしん相談員を通して、意見を聞いたりしている。また、担当職員の意見により随時の見直しも行われており、一人ひとりの意向を反映している。	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から入居前の生活や馴染みの暮らし方、習慣などの情報を頂き、アセスメント時に確認している。又入居後も折に触れご家族からご本人の趣向などについて話を聞き情報収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床、入眠時間等も職員間で申し送り把握して本人のペースにあわせている。通常の心身状態、それと照らし合わせた変化に留意して。出来ること、出来ない事も定期的に評価し、できる事と支援が必要な部分を職員間で把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は本人、家族の意見や要望を必ず聞いている。その上で職員間で課題やケアのあり方について意見を出し合い、それらを踏まえたケアプラン作成に努めている。	介護計画は、本人・ご家族から意向・要望などを聞き、6ヶ月ごとに見直しを行っている。また、毎月のミーティングで確認も行い、担当職員の意見により、状態変化が生じた時には随時の見直しもやっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプラン実践について記録の書き方の指導を適宜しており、得られた情報からケア方法について見直しや検討をしている。確定したケア方法については改めてケアプランを作成し徹底に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的なニーズにも適宜対応出来る様に柔軟な発想を持ちケアを提供できるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望に応じて訪問理髪サービスを利用したり、安心相談員と情報交換している。民生委員を通じて地域活動に互いに参加しあったり協働している。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は本人や家族に選定してもらっている。施設協力医と外部病院に分かれているが、協力医には変化があれば逐一相談し、必要に応じ往診して頂き家族に報告してる。外部でも異常や相談がある際は、管理者が家族に同行して主治医と話をしてる。	入居時に、主治医をホームの協力医か今までのかかりつけ医かの希望を聞いている。協力医による往診は月2回行われ、ご家族が月に2回診察に連れて行く人もいる。状態によっては管理者が診察に同席し状態の把握に努めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問時に合せ前もって相談事や気づきをまとめておき、訪問時指示を仰いでいる。又普段から些細なことでも気になることがある際は電話で相談しており、必要に応じて訪問して頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はこまめに医療機関に連絡し状態や今後の見通しについて情報収集している。又見舞いに行ったり家族と連絡を取り合い早期退院支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族に説明している。実際にターミナルに移行しそうな状態の際は早い段階で主治医や家族、必要に応じて親族にも呼びかけ話し合いの場を設定している。指針を定めており、今後について要望や意向を聞いたり事業所の説明をし、方向性を確認している。	前回の外部調査後に独自の『看取り介護指針』を作成し、重度化した場合にはその都度ご家族に対して指針による説明を行い、同意を得ている。独自の指針を作成する前に主治医・ご家族と相談しながら看取りも行われた。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急対応や応急手当などの勉強会を行い全職員が対応できるよう努めている。毎月の定例会議でも起こりうるリスクやその対応について説明をし、職員間で共有している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については昼夜の避難訓練を行い、全員が参加できるよう設定している。参加できなかった職員にも詳細に説明し、避難方法について把握を促している。地震、水害避難方法は今後検討予定。地域住民の協力体制の了承は頂いているが、訓練への参加実績はない。	夜間の避難訓練が行われた。計画を立て役割分担等も決め行ったが、ホーム独自では2ユニットに一人の夜勤では、避難・連絡体制的には大変な事など、反省会では色々な問題点を確認出来た。	ホーム独自で夜間の避難訓練も行われたが、法人内の隣接施設との協力体制、または開設時に地区自主防災会と『災害時における協力応援体制に関する協定書』で防災協力を締結し、応援を約束していることから、避難訓練等にも地区の参加を呼び掛け、災害時には協力が得られるよう働きかける事が望ましい。

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格に応じて声がけの仕方を工夫している。訪室時のノックや排泄についての声がけ、あからさまな介護はしない等プライバシーを損ねないよう職員間で配慮してる。	契約時に本人・ご家族から年齢毎に生活歴の情報を得、特徴などを踏まえ一人ひとりのプライバシーに配慮しながらケアに活かしている。トイレ介助や入浴介助などは特に職員間でも配慮を確認し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に「何をしたいか」ご本人の希望を聞き、それを優先した活動を重ねる事で自己決定出来る場面が増える様努めてる。何かしようとしている際はそっと見守り、主体的な行動を大切にし、したいことが自由に出来る環境であるよう努めてる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入眠時間、食事時間は本人のペースに合せている。一日の流れもルール化せず、どのように過ごしたいか常に希望を聞いている。急な外出などの希望があるときも職員の都合で制止せず、したい時にしたい事が出来るよう支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は本人に服を選んで頂いてる。意思表示が困難な際は職員がご家族の要望等を汲みコーディネートしている。時折理髪ボランティア来所して頂き、マニキュアなどのおしゃれを楽しむこともある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食べ物を把握しており代替品を個別に提供したり、個々に合わせ食事形態も工夫して楽しく楽に食事できるよう配慮してる。職員とご利用者が協力し合って食材カットや炒め物、味付け、盛り付けを行ってる。苦手な方には配膳や台拭き等の作業して頂いてる。	食事摂取記録ノートを作成し、一人ひとりの調理形態・摂取量・好みなど記録し、食事の摂りづらい方など職員間で情報を共有し工夫している。食事には、利用者と共に庭で収穫した野菜を使い、調理・盛りつけ・片付けなど行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取が不十分な際は摂取しない原因を検討し、食器を変えたりして適切な摂取量が確保出来る様工夫している。摂取量が気になる際は個別にチェック表を用いて摂取量を把握すると共に、必要な量を摂取出来る様昼夜共に職員間で工夫して提供している。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを全職員が提供できるようケア方法を共有し徹底を図っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「後始末ケア」ではなく「先回りケア」で失禁を防ぐ様努めている。失禁やオムツ使用の増大が気になる方は個別の排泄記録を用いてパターンの把握、個別誘導時間等を検討し、トイレでの排泄、オムツ使用の軽減を目標にしている。	排泄記録により個々の排泄パターンを把握しており、時間を見計らって声掛け誘導など行い出来るだけトイレでの排泄に支援している。オムツの使用量も減ってきている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘もBPSDを出現させる大きな要因である事を理解しており、出来る限り普通便排泄が促せる様個人に応じ習慣となる飲食物を取り入れたり運動したりしている。身体状況から下剤を服用している方も人間的な排泄(下剤の都度下痢ではなく普通便になる様)が出来る様検討中。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があればそのタイミングで入浴して頂き、個々の希望の時間に合わせてお誘いしている。入浴拒否が続いている方には手紙を渡したり声かけを工夫したり希望する職員が対応したりしている。バラ風呂等楽しめる工夫をしている。	浴槽は一般家庭用の浴槽と、腰掛けて入事が出来る機械浴槽があり、身体的に重度化しても入浴出来るよう工夫がされており、一人ひとりの状態や希望により、どちらの浴槽で週に何回入浴するのか一覧表が作成されている。また、例年であれば年に2回ほど温泉にもドライブを兼ね出かけるが、今年は新型インフルエンザの影響により外出は見合わせている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて就寝、午睡して頂いている。夜間不眠がみられる際は午睡を促したり、日中の活動量を増やし自然に眠くなる様促している。又職員が添い寝する等安心して眠りにつけるよう工夫している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について勉強会をしたり処方箋をケース毎に整理している。服薬時本人と一緒に確認し見守っている。服薬の変更があった際は記録し、全職員が把握する様にしている。様子観察を申し送り、症状に変化等があればすぐに管理者に報告し、主治医に指示を仰ぐよう徹底している。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生花や謡など今までの趣味を継続して生活して頂いている(発揮できる機会をつくっている)。心身状況に合わせて食事や掃除、洗濯物たたみ等、出来る範囲のことをケアプランに組み入れ行って頂いている。希望がある際は飲酒もして頂いている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日希望を聞いて戸外に出ている。本人希望時は制止せず自宅に同行する等行きたい所に行ける様支援している。集団での遠出外出(温泉等)とは別に、普段の会話から行きたい所を把握し、職員とマンツーマンで遠出したりしてる	出来るだけホーム内に留まらず、食材の買い出し・散歩・ドライブなど日頃から外出の機会を多く設けている。希望により懐かしい場所にお連れしたり、誕生日には『来年』ではなく『今』を大切に、外食など希望の1日になるよう支援している。今年は、7年に1回の善光寺の御開帳の年でもあり、皆さんで行って来た。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時にレジや銀行で支払い等はして頂いているが、本人の所持金で買物することは行っていない		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけ話して頂いている。年始にはご家族宛に年賀状作成を支援している。友人から文通の申し出があり、職員が支援しながら不定期に文通されている方もいる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、トイレ等は不安感を抱かぬ様暗くなったらすぐ電気をつける、扉開閉や調理の際大きな音を立てない、空調管理等不快な刺激を避ける様、環境に配慮している。居間にはご利用者が活けた花や行事の写真、季節を採り入れた飾りを適宜入れ替えている。	玄関からリビングに入ると広い空間で、家族から毎月お花が届られ、利用者によるお花が生けられていたり、皆さんで外出した記念写真も沢山飾られていた。2ユニットは事務所を挟んで分かれているが、訪問調査時にもそれぞれのユニットに行ったり来たりで、人数把握が出来ないくらい自由に居心地の良さが感じられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブルも2つに区切ったり、ソファや座イスなどの居場所を設定してる。フロアを自由に行き来して頂き、気の合う方向士が穏やかに過したり、足を伸ばせる空間をつくり、リラックス出来るよう配慮してる		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠よしだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を持ち込んでいる方やご家族が定期的に植木鉢を替え花を飾っている方等もあり、居室は自由に使って頂いている。ご家族になるべくなじみの物や好みの物を持ち込んで頂くようお願いしている。外出時や家族、友人と一緒に写真を飾ったりしてる。	特に制限もなく、使い慣れた筆筒や仏壇・テレビ・家族の写真など持ち込まれ、個々に過ごしやすいよう居室作りがされていた。各居室には洗面台が備えて付けられており、食事の後は職員の声掛けにより口腔ケアが行われていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに大きく「便所」と表示したり、居室を迷ってしまう方の部屋には好きな花を目印につけたり、トイレの手すりに赤色のテープをつけたりして職員が手や口を出しすぎず、ご本人が自分で行為を行えるよう環境の工夫をしている		